SVⅡ・SVⅢワイヤー専用（他のワイヤーには使用しないでください）

Hakken

ジョイントスリーブ ＳＶⅢ

付属品 □ 10個 □ 15個 □ 25個

ジョイントスリーブ取扱説明書

◎ ダイヤモンドワイヤー（以下ワイヤー）の性能を最高に発揮させるとともに、災害を防止し安全にご使用いただくために、ご使用前に本書とワイヤーおよび使用機械の取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しく使用してください。

株式会社コンセック

〒733-0833 広島市西区商工センター４－６－８

TEL(082)277-5451 FAX(082)278-6389

この取扱説明書では取扱いを誤った場合に予想される危険や損害の程度を「▲警告」と「⚠注意」の２段階に分けて表示しています。

「▲警告」： 誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

「⚠注意」： 誤った取扱いをした時に、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみ発生が想定される内容のご注意。

▲ 警 告

1，ワイヤーソーの使用に当たっては、機械の取扱説明書や現場の安全指針に従って、ワイヤー、ビーズ、スリーブの飛散を前提とした防護処置を、確実に行ってください。防護処置を誤ると死亡事故に至る危険性があります。

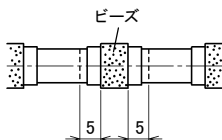
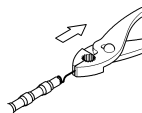
2，このスリーブはＳＶⅡ・ＳＶⅢワイヤー専用です。（目印は数字の5の刻印です）他のワイヤーには絶対に接続しないでください。ワイヤーの接続は、この取扱説明書に従って正しく接続してください。誤った接続を行うと、ビーズやスリーブが飛散し、防護処置が不完全であれば重大事故に至る可能性があります。

① 作業に入る前に、ご使用になる手動式油圧プレスの圧力は正常か、またダイスは摩耗していないか、必ずチェックしてください。

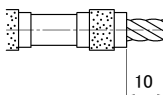
▲ 警 告

1，当社指定の手動式油圧プレスをご使用ください。圧力が8～8．5トンになるよう調整してください。（圧力調整はご使用の手動式油圧プレスの取扱説明書をよくお読みのうえ行ってください。）圧力が正常な場合、圧着後のスリーブの六角形各辺がほぼ均等になります。圧力が出ていないプレスで圧着するとワイヤーが抜けやすくなります。ワイヤーが抜けると、ビーズやスリーブが飛散して、重大事故に至る可能性があります。

2，指定のダイスをご使用してください。摩耗したダイスを使用しないでください。目安として、圧着後のスリーブの六角形各辺が偏った形になりましたら交換してください。摩耗したダイスで圧着するとワイヤーが抜けやすくなります。ワイヤーが抜けると、ビーズやスリーブが飛散して重大事故に至る可能性があります。

② ワイヤーのビーズの端から約5mmの位置をワイヤーカッターで切断してください。切断はワイヤーの長さ方向に対し垂直でフラットな面になるようにしてください。

③ ワイヤーの両端のスプリングをペンチ等ではずします。ワイヤーを踏んで、ペンチ等でスプリングの端を引っ張ると簡単にはずれます。

④ カッターナイフで残ったワイヤーに付着している被膜材を除去してください。被膜材の除去は、ワイヤーがスリーブにスムーズに入るように行ってください。

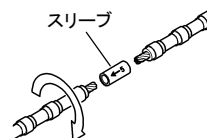
▲ 警 告

被膜材除去の長さは必ず10mmにしてください。10mmより短いと、ワイヤーとスリーブの接触が短くなり、接合強度が低下します。また、10mm より長いと、スリーブとビーズにすきまができ、ワイヤーがスリーブと擦れてワイヤーの破断原因となります。（鉄用は 9mm です。）

ワイヤー接続作業の重要チェックポイント

① 手動式油圧プレスの圧力は出ているか？
② ダイスに異常はないか？
③ 正しい長さで切ったか？
④ ゴムは取ったか？
⑤ 内面にゴミ・油・サビはついていないか？
⑥ スリーブとワイヤーの方向は合っているか？
⑦ 奥まですきまなく入れたか？
⑧ スリーブ全長を圧着したか？
⑨ 前後3回、計6回圧着したか？

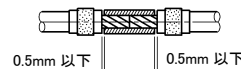
株式会社 コンセック

点線から切り取って、現場に携帯してください。

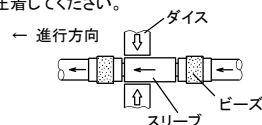
⑤ ワイヤー2mあたり1回転を目安に図の矢印方向にねじり、ワイヤーをスリーブの中に入れてください。

⚠ 注 意

被削物の切断中にワイヤーの偏摩耗を防ぐためにも、必ずねじってください。

⑥ スリーブの矢印とワイヤー進行方向の矢印合わせてください。間違えて入れると正しく圧着されずワイヤーが抜けてスリーブが飛散し、重大事故に至る可能性があります。

⑦ ワイヤー両端をスリーブに入れてワイヤーを少しねじり、両端が接触しているか確認してください。また、この時スリーブとビーズの隙間が0．5mm 以下であることも確認してください。

▲ 警 告

ワイヤーをスリーブに入れるときに、ワイヤーの表面とスリーブの内面にゴミなどの付着物があると、接合強度が不充分になり危険ですので、①からやり直してください。

⑧ スリーブの端がダイスから出ないことを確認後、圧着してください。

⑨ 手動式油圧プレスが「カチッ」といったらスリーブをずらし、反対側を圧着してください。ここでも、スリーブの端がダイスから出ないことを確認後、圧着してください

⑩ ワイヤーとスリーブを60度回転させて⑧と⑨の作業を実施してください。

▲ 警 告

スリーブの六角の面とダイスの六角の面が合うように回転させてください。面が合っていないとスリーブに亀裂が生じたり、所定の引き抜き強度が得られずワイヤーが抜けやすくなります。ワイヤーが抜けるとスリーブが飛散して重大な事故に至る可能性があります。

⑪ もう一度ワイヤーとスリーブを60度回転させて、⑧と⑨の作業を再度実施してください。前後で各3回ずつ交互に圧着したら完了です。

▲ 警 告

必ず前後各3回、計6回圧着作業を行ってください。回数が少ないと圧着力が弱く、ワイヤーが抜けやすくなります。

⑫ スリーブは実切断1時間ごとに交換してください。

▲ 警 告

スリーブが摩耗していると、スリーブ抜けの原因となり大変危険です。また偏摩耗などは特に危険ですのでご注意ください。

⑬ 未使用のスリーブは、ビニール袋に入れて封印して保管してください。

E2170-0